



さくら並木

～共有したい、「働きは最高の喜び」～

大河原町長 齋 清志



雨上がりの白石川堤は、まばゆいばかりの緑のトンネルです。マイナスイオンの降り注ぐ一年中で最もさわやかな季節を迎えています。例年以上の賑わいだっただ目千本桜の輝きも過ぎ去って、この対照的な静かな緑の風情が心の癒しとなつていくように感じています。

早いもので町政への復帰から半年余りが経過し、この間のスムーズな仕事への着手に心から感謝の気持ちでいっぱいです。私自身、ほとんど仕事をしない4年間を過ごしてきましたが、改めて働けることへの喜びと生きがい、を強く実感しているところです。

さて町政の現状ですが、28年度に続く復興対策交付金事業（一目千本桜ブランド化事業）は、今年度分として3700万円ほどの補助金交付となりました。柴田町との観光インバウンド連携事業として、着実な成果へとつなげていく所存です。また、地方創生拠点整備交付金事業（中央公民館複合化賑わい創出事業）にも7300万円ほどの国からの補助

の内示がありました。職員の内示が、職員の頑張りにも助けられて、直近の課題解決と合わせ将来への創造的な展開が期待される事業内容となりました。必ずや町民の皆さまの満足につながるものと感じているところです。

話は変わりますが、私の座右の銘の一つに「働きは最高の喜び」という格言があります。「働きが人生である。働きは生命である。この働きには、そのままに必ず報酬がついている。金銭で受ける報酬は多少があり、不公平があったりするかもしれないが、この自然にして当然に受ける報酬は、必ず働きに比例して落ちもなく、忘れられもせず、必ず直ちに与えられる。それは喜びという報酬である。」とされています。

（万人幸福の葉より抜粋）

以前より、「役場は誰のためであつて、職員は何の目的で仕事をするのか」という問いかけが私の口癖でした。仕事の成果（働き）が役場全体のモチベーションのアップにつながることを、日々期

待しているところです。もちろん、仕事に上下貴賤の別がある訳ではありませんが、公務員としての仕事の尊さを悟って懸命に働くときに、自分に与えられる楽しみや満足感は何物にも替え難い人生の喜びであると受け止めています。この想いがみんなに共有できたときに役場は一体化して、潜在能力の発揮につながっていくものと信じています。

本町もいよいよ人口減少と少子高齢化の波に晒されることとなりました。働き手（生産年齢人口）も減少し、認知症のかたが増え、核家族化・孤立化に拍車がかかり、生活の質が問われるようになっていきます。このような社会の枠組みが大きく変化する時代だからこそ、仕事の成果（働き）に対する共通の認識が重要になってくると思えてならないのです。この「働きを最高の喜びとする」姿勢が役場の接遇のブランド化にもつながって、親切で明るい元氣な組織になっていくことを願ってやみません。

（5月19日記）

一般 まちの本棚

■**がんばらない介護**
橋中 今日子／著 「ダイヤモンド社」
認知症の祖母、重度身体障害の母、知的障害の弟を21年間、1人で介護してきた理学療法士が、介護の心を軽くする36のコツを公開。介護と仕事を両立させる方法「介護うつ」にならない方法などを事例と共に紹介する。

■**犬が聞いた素敵な話**
山口 花／著 「東邦出版」
どうして犬と暮らしたいと思いはじめたのか、うまく説明はできない。なにかを慈しみたい。そんな気持ちだった。飼主から愛犬へ、愛犬から飼主へ。通い合う心をそれぞれの目線で綴った、感動の美しい短編全14話を収録。

■**子ども君主論**
齋藤 孝／監修 「日本図書センター」
「やさしさときびしさはバランスがたいせつ」運だけでうまくいっても結局あとで苦労するだけ。これからの人生で役に立つ「君主論」を子ども向けに超訳。イラストを交えてわかりやすく紹介する。

■**みてみておかさ**
LEE／文 みやこし あきこ／絵 「白泉社」
「このころちよっぴり淋しげな、みなちゃん。それは、おかささんが、あかちゃんのお世話で毎日いそがしいから。甘えたいのに甘えられない、おねえちゃんになった女の子の気持ちを柔らかく空気感で描いた絵本。」

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

「自分の命は自分で守る」力を育てる

これは大河原小学校の学校教育目標の一つです。児童が、交通安全のみならず、自然災害や不審者に出遭った時に、自分で判断し、行動できる力を育てることが必要だと考えています。そこで、4月から毎月、「防犯教室」として、警察署のかたのお話を聞いたり、校内侵入者を想定した避難訓練を行ったりしてきました。6月には地震を想定した避難訓練や集団下校訓練を予定しています。これからも様々な訓練を行い、「自分の命は自分で守る」力を育てていきます。



自分の命は自分で守る

命を守る学習として、4月19日に防犯訓練を実施しました。訓練には、大河原警察署の熊谷様をはじめ、防犯指導隊の皆様や、民生児童委員の皆様、隊友会の皆様に来校していただき、子どもたちの避難の様子



を参観していただきました。

その後、実施した防犯教室では、警察署のかたを中心に「いかにおすし」についての寸劇をしていただきました。危険を感じたときは、「いかにおすし」を思いだし、すぐ行動できるように育てていきます。



大中編

シリーズ⑭

暗唱大好き



＜暗唱読本カード＞ 目指せ暗唱読本マスター！！

番号	題名	ページ	合格
67	『納屋』より	78	○
68	山のあなた	79	○
69	『注文の多い料理店』序より	80	○
70	『蜘蛛の糸』冒頭	81	○
71	春風	82	○
72	『雷鳴』冒頭	83	○
73	小泉真博	84	○
74	枕草子	85	○
75	『平家物語』冒頭	86	○

本校では、朝の活動として毎週金曜日に暗唱読本に取り組んでいます。今年から「暗唱読本マスター」なるものをテーマに、「暗唱読本カード」を使用しています。始めの3分間は暗唱練習です。自分が選んだ文章を何回も読んで、暗唱できるまでやります。その後、暗唱テストの時間です。友達同士、2人組で暗唱のチェックを行います。そして、合格したらカードにシールを貼っていきます。どこまでできたのかが一目で分かるので、生徒の励みになっています。

本校では町外の小学校からの入学生に、入学式で暗唱読本「寿限無」が授与されます。小学校から取り組んできた生徒はだいぶ暗唱できるようになっていますが、初めて暗唱に取り組む生徒も負けてはいません。お互いに刺激し合いながら、切磋琢磨する姿が見られます。大中生全員が「暗唱読本マスター」になれるように、楽しみながら頑張っています。

～ 中学校の部活動は土日のいずれが休養日です ～

教育委員会からのお知らせ

宮城県教育委員会では「部活動での指導ガイドライン」を平成29年3月に設定しました。「生徒の発達段階、健康面・学習面や生活全体とのバランス」に配慮し、中学校では週2日以上、高等学校では週1日以上の休養日をとることとなっています。町内の中学校においても、原則として土日のいずれかと平日の1日（月曜日）を休養日としております。しっかりと休養をとることが、運動部活動におけるスポーツ障害を防止し、競技力の向上にもつながります。子どもたちの健康増進・健全育成にご理解・ご協力をお願いします。